

京都市生物多様性プラン（2021-2030） 中間見直し案について

これまでの議論の状況

● これまでの議論の状況

令和6年度

第1回

- 令和5年度の実施状況
- プラン見直しに向けた論点整理

11月5日【終了】

第2回

- 目標1～2
- 推進プロジェクト

1月15日【終了】

第3回

- 目標3～4
- 評価指標

3月14日【終了】

令和7年度

第1回

- プラン見直し（骨子案）

6月30日【終了】

第2回

- プラン見直し（案）
- 令和6年度の実施状況

9月25日【本日】

現行プランの進捗状況

● 京都市生物多様性プラン（2021-2030）

(1) 位置付け

生物多様性基本法第13条に基づく生物多様性地域戦略

(2) 計画期間

令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間

(3) 基本方針

「生物多様性の保全と持続可能な利用」の具体的な方策を示し、あらゆる主体が行動できる指針

(4) 2050年のあるべき姿

自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」

(5) 2030年度までの目標

- ①京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る
- ②生息・生育地と種の多様性を保全・回復する
- ③生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る
- ④社会変革に向けた仕組みを構築する

現行プランの進捗状況

● プランが目指す将来像

- ・ 緑豊かな山々や、鴨川や桂川をはじめとする清流の恵みを受けながら、鮮やかに季節が移ろう京都は、自然と共生する暮らしの中で多様な文化を形成してきた
- ・ 京料理に用いる川魚やタケノコ、社寺の庭園の借景など、自然からの恵みは、衣食住をはじめとする私たちの暮らしを支え、その営みが、多様な生きものが息づく里地里山を形成してきた
- ・ 自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」を目指している



鴨川



タケノコの収穫

現行プランの進捗状況

● 現行プランの進捗状況

認知の促進

- ・ プラン推進に係る活動交流会やきょうと☆いきものフェス！、企業向けセミナーの開催など、**交流の機会の場を創出**

(交流会参加者：R6 179名、フェス参加者：R6 約1万人、
セミナー参加者：R6 322名(計4回実施))

- ・ 市立小学校における自然観察会を支援する「地域生きもの探偵団」の推進(実施校、授業数：R6 13校、30回)

- ・ 民間企業等や環境学習施設との連携による**環境学習の機会の創出**(環境学習参加者：R5 192,495名)

- ・ ポータルサイト「京・生きものミュージアム」を活用し、生物多様性に係る知見や多様な活動事例やイベント等の発信(サイトへの訪問回数：R6 31,470回)



きょうと☆いきものフェス！(ブース展示)



地域生きもの探偵団

現行プランの進捗状況

● 現行プランの進捗状況

行動変容の促進

- ・ 民間企業と連携し、市民参加型の京都ゆかりの植物の育成活動を実施
- ・ 「きょうと生物多様性センター」における市民・事業者等のコーディネートにより、市民団体や事業者等のネットワーク形成や行動変容を促進（コーディネート数：R6 85回）
- ・ 「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」により、生物多様性保全活動に取り組む団体を支援（協定締結数：延べ5件）
- ・ 「チマキザサの再生」など市が関与する取組をはじめ、民間企業や保全団体による自然共生サイトへの認定を促進（認定件数（累計）：10件（R6末時点）【全市町村最多】）
- ・ 「京の生きものの生息調査」により、市民に市内で見られる生きものを報告いただき、生息状況の把握を実施（報告件数：R6 153件）



きょうと生物多様性パートナーシップ協定締結式



自然共生サイト認定証授与式

現行プランの進捗状況

● 現行プランの進捗状況

基盤となる取組

- ・花脊地域におけるチマキザサの再生や東山等における生物多様性豊かな森づくりなど、多様な主体と協働した森里街川の保全活動の推進

森：チマキザサの再生、東山の森づくり、西山の自然環境保全

里：環境保全型農業の推進

街・川：宝が池の森の保全・再生・利活用、天然アユなどの川の恵みを豊かにする活動推進

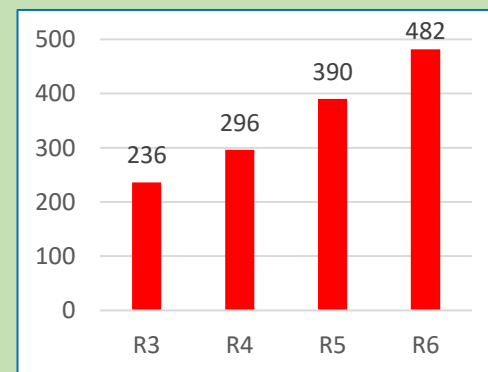
京都らしさ：「京都らしさ」を支える生物資源調査

- ・「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」による保全活動の推進（認定者数（累計）：R6 482者）

- ・特定外来生物をはじめとした侵略的外来生物の防除（クビアカツヤカミキリ、アルゼンチンアリ等）



厄除け粽づくり体験イベント



京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度
認定者数

現行プランの進捗状況

● 現行プランの進捗状況

指標による評価

- ・ 2030年目標の達成度を、指標の推移により評価。フタバアオイ等の保全に取り組む個人・団体の認定件数は年々増加するなど、**「積極的に活動している人」の評価は堅調**

指標	R4年度	R5年度	R6年度
京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度取組者数（累計）	296者	390者	482者

- ・ 市民アンケートによる「自然を身近に感じる機会がある人」は7割を超えるが、「生物多様性を守るために、取り組んでいる人」は5割にとどまり、**認知の拡大や行動変容に係る指標の進捗が悪い**

指標	R4年度	R5年度	R6年度
暮らしの中で、自然を身近に感じる機会がある人	72.3%	70.4%	71.0%
生物多様性を守るために、取り組んでいる人	54.5%	53.3%	47.5%

まとめ

認定制度の推進やきょうと生物多様性センターの設置、協定制度の創設等、活動を支援する体制整備や実践の機会の創出を推進し、「積極的に活動している人」の掘起こしや後押しが進んだ結果、**全体として「自然共生社会」の実現に向け、着実に進捗**
一方、**市民・事業者等の認知度の向上や行動変容の全市的な広がり**に欠けている

現行プランの進捗状況

● 表出してきた課題

認知の促進

興味のある人の認知は進んでいる一方、参加者が自然や生きものに興味がある層に偏っており、学生や観光客をはじめとした幅広い方々に浸透するまでには至っていない

その要因は、「生物多様性のために活動している団体等」の紹介や交流する場づくりなど、「生物多様性」を主題とした情報発信や支援にとどまっていることや、自然や生きものに触れる機会の減少により、子どもをはじめとした幅広い層の「原体験※」を得る機会が不足しているためと考えられる ※自然の面白さ、不思議などを感じ、記憶に残るような体験

行動変容の促進

「積極的に活動している人」を支援する体制を強化してきたが、「生物多様性を守るために取り組んでいる人」が5割と「自然を身近に感じる機会がある人」の7割と大きく乖離があるだけでなく、減少傾向にあるなど、あらゆる方々が行動する状態には至っていない

その要因は、積極的に活動している人の支援に偏っており、「認知し、行動したいものの、できない人」を後押しするきっかけづくりや、「行動する必要性を感じていない人」が気付く機会の創出が不足していると考えられる

現行プランの進捗状況

● 国等の動向

自然的社会的条件の変化

- ・ 世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の採択（令和4年12月）
- ・ 生物多様性国家戦略（2023-2030）の策定（令和6年3月）
- ・ 生物多様性増進活動促進法の施行（令和7年4月）
- ・ 新京都戦略、京都基本構想（仮称）、次期環境基本計画等の上位計画の策定（令和7年）

①学生や観光客等をはじめとした幅広い層への認知促進や、②企業等の行動する状態に至っていない層へのきっかけの創出など現行プランの課題に対応するため、各行政分野との融合による施策の積上げが必要

現行プランは、世界目標や国家戦略等の基本的な考え方と一致していることから、プランの構成や2030年度目標等、**骨格部分は据置き**とするが、**国内外の新たな動向に係る情報の更新や本市上位計画等との整合**が必要

まとめ

プランの見直し

● 課題解決に向けた取組

認知の促進

・「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の構築

新規

： 市民・事業者・観光客などの参加により、京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深める仕掛けを創設し、新たな層を巻込む

・「きょうと☆いきものフェス」や企業向けセミナーの開催

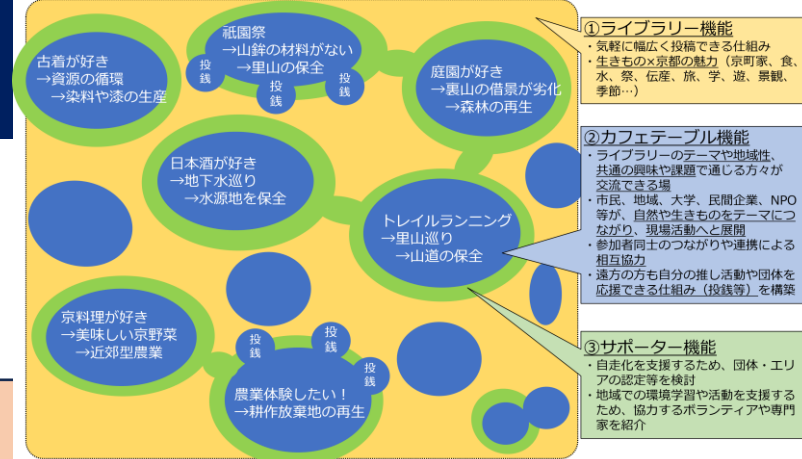
充実

： きょうと生物多様性センターによる、生物多様性に係るイベントやセミナーの開催により、幅広い層への情報発信や経営層への働き掛けを推進

・生物多様性の視点を持つガイドを養成する仕組みの創設

充実

： 養成講座やモデルツアーの実施により、生物多様性の視点を持った観光ガイドや観光事業者の拡大を促進



「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」イメージ図



企業のための生物多様性セミナー



生物多様性の視点を持つガイドによるツアー

プランの見直し

● 課題解決に向けた取組

認知の促進

- ・ **原体験が得られる新たなプログラム開発の促進** **充実**
：「生きもののむすぶ・みんなのミュージアム」の活用やガイドの養成により、京都の豊かな自然をいかした観光コンテンツなど、原体験が得られるプログラム開発を促進
- ・ **「地域生きもの探偵団」の発展・横展開** **充実**
：生きものに関心のある学校への個別周知や教員の自主研修会での周知、リピーター校専用枠の創設など、自然観察会を体験できる学校を拡大。また、事業対象を拡大し、町内会など地域の方々が自然に触れ、原体験を得る機会の創出を支援
- ・ **きょうと生物多様性センターで生物多様性情報を集積し、順次市民、事業者等に対して公開**
：京都市内の生物多様性の状況を把握するため、動植物の分布情報等を収集し、データベースを構築する。身近な種などについては、生息状況の見える化等を行うことで、市民や事業者等への普及啓発等に活用



地域生きもの探偵団の様子



きょうと生物多様性情報デジタルアーカイブ

プランの見直し

● 課題解決に向けた取組

行動変容の促進

・市内の企業等と連携し、京都ゆかりの植物の持続可能な供給

：当該植物の供給に関わる関係者と連携し、供給体制の構築に向けた現状や課題の確認、要因の分析、解決策の検討を行い、京都ゆかりの植物の持続可能な供給体制を構築

新規

・生物多様性に配慮した緑化に係る優良事例集の作成・運用

：企業や公共工事等における生物多様性への配慮促進に向け、庁内関係部署や事業者と連携し、緑化に係る事例集を作成し、運用

新規

・生物多様性に係る現状の継続的かつ効果的な把握

：研究者や保全団体等と協力し、市内の生物多様性の現状把握を進め、優先的に保全すべき地域・動植物の見える化など、行動を起こすきっかけをつくる

充実

・公共調達・公共事業における配慮の具体化や森林・農地における生物多様性保全の枠組みづくり

充実

：環境保全型農業に取り組む農地において、農林水産業と環境の流域連携の取組を支援し、当該農作物のブランド化を図る



企業の庭における和の花の活用事例
(日新電機株式会社)



農業と環境の連携による農産物のブランド化
先進事例（豊岡市：コウノトリ育む農法）

出典：コウノトリ育むお米のひみつ（https://www.city.toyooka.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/004/053/okomenohimitsu.pdf）を加工して作成

プランの見直し

● 課題解決に向けた取組

行動変容の促進

・ 自然観察会等で発見した動植物を報告いただく 市民参加型調査の推進

：東山等で実施する自然観察会において、市民が発見した動植物を「京の生きもの生息調査」により報告

・ 京都ゆかりの植物の市街地緑化への活用や生息地再生に向けた取組の推進

：京都ゆかりの植物の持続可能な供給体制や優良事例集を活用し、公園等の緑化や生息地の再生において京都ゆかりの植物を活用

・ 庁内関連部署、活動団体、民間企業、寺社仏閣等への自然共生サイト認定促進

：市有地や活動団体等における認定候補地を創出するため、生物情報のモニタリング調査・申請補助等を実施

・ 生物多様性保全活動の支援体制の充実

：「きょうと生物多様性センター」における市民・事業者等のコーディネートや「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」による活動団体の支援



自然共生サイトの認定事例（渉成園）



パートナーシップ協定に基づく支援
（花脊チマキザサ保護区の防鹿柵設置）

プランの見直し

● 課題解決に向けた取組

基盤となる取組

・「推進プロジェクト」の更なる推進

：「チマキザサ再生委員会」と協働した花脊地域におけるチマキザサの再生や「京都伝統文化の森推進協議会」と協働した東山等における生物多様性豊かな森づくりなど

・民間企業等と連携した生物多様性保全の推進

：市民との協働による生物多様性に配慮した庭づくりや生息域外保全を行う希少種の苗の育成等、武田薬品工業(株)京都薬用植物園をはじめ、民間企業等と連携した取組の推進

・特定外来生物の防除・定着防止

：市民や事業者、庁内関係部署等と協働した、クビアカツヤカミキリやアルゼンチンアリなどの防除

上記のほか、庁内関係部署・関係団体と協働し、
基盤となる取組を推進



清水山における生物多様性豊かな森づくり



武田薬品工業(株)京都薬用植物園内の「市民の庭」
における希少種の生息域外保全の取組

プランの見直し

● プランの評価指標

目標達成に係る評価指標

・本市の生物多様性の状態を表す象徴的な生きものの生息状況

（候補：チマキザサ、モリアオガエル、ツバメ、ゲンジボタル、アユ、カヤネズミ）

：森・里・街・川の各エリアで多様な分類の象徴種をモニタリングし、実質的な生物多様性の向上を客観的に評価

※本指標の考え方は 資料6 を参照

・自然共生サイトの認定面積・件数

：生物多様性の保全・再生や持続可能な利用ができている場所や取組が増えている状況を客観的に評価

・「京都の身近な自然環境が守られ、受け継がれている」と思う市民の割合

：生物多様性の保全・再生や持続可能な利用の取組や、それを支える取組が拡大し、市民が体感できている状態を主観的に評価

上記のほか、2030年度までの4つの目標ごとに設定した達成項目の進捗状況を把握する指標を設定

今後のスケジュール

● 今後のスケジュール（予定）

